

【地域創生×SDGs セミナー】
「地域の取組みが世界を変える～「産官学民」のSDGs 取組事例を中心に～」
2019年7月23日 TKP ガーデンシティ鹿児島中央 霧島プレミアム

パネルディスカッション 登壇者紹介

「産」:株式会社そらのまち保育園 活動概況

2018年春に天文館に開園した保育園。19年度の園児数は45人、20年度は80人を予定。「子どもたちの親友でありたい」をテーマに、地域に開かれた保育を行っており、園内だけでなく一般向けにも食を中心とするワークショップを実施したり、毎月天文館の清掃活動を実施したりしながら、地域に溶け込み新しい形での町づくりを実現しているとして、2018年キッズデザイン賞、リノベーションオブザイヤー審査員特別賞などを受賞。園には地域の食材を使った料理が楽しめる総菜店が併設されており、県内の生産者との交流や、鹿児島の郷土料理の発信なども行っている。

株式会社そらのまち保育園 代表取締役会長 古川 理沙 氏 プロフィール

1977年生。鹿児島県出身。大学などでの教員歴や会社経営歴、8年間の海外生活を通して感じたことを軸に「人材育成の鍵は幼児教育にある」と考え、新しい形の幼児教育の在り方を実践するため、2017年鹿児島県霧島市に「ひより保育園」を開園。2018年には姉妹園となる「そらのまちほいくえん」を鹿児島市天文館に開園。商店街の中にある保育園として、近隣の店舗や大人達との関わりを通して街の活性化につながる活動にも注力している。

「産」:枕崎水産加工業協同組合 活動概況

昭和24年10月の団体設立。事業内容としては、鰹節製造に必要な資材の調達・購入事業・節加工残さいの処理によって出来た製品(魚粉・魚油など)を販売する販売事業・鰹節の産地入札会による産地即売会の開催・組合員の原料カツオを冷凍保管する保管事業・鰹節の整形加工を受託し整形加工する加工事業からなり、傘下組合員が協同して経済活動を行い、水産加工業の生産能率を上げ、もって組合員の経済的、社会的地位を高める活動を行っている。特に販売事業部においては、限りあるカツオ資源の有効活用化を図り、循環型社会の構築を確立しSDGs推進に取り組んでいる。

枕崎水産加工業協同組合 総務部参事 小湊 芳洋 氏 プロフィール

1953年生まれ1972年大洋漁業株式会社(現マルハニチロ)に入社し、海外トロール事業部に所属する。1980年枕崎水産加工業協同組合に入組、販売事業部に配属されカツオ残渣の未利用資源部位の高付加価値を目指すなど、機能性食品素材DHA・EPA魚油の高度抽出技術の確立や天然カルシウム素材の商品開発に従事する。2008年から総務部に異動し枕崎鰹節ブランド構築や知財関係を担当する。

「官」:鹿児島県大崎町 活動概況

鹿児島県の東南部に位置し、総面積100.67平方キロメートル、人口約13,000人の町である。温暖多照な恵まれた気候を背景に生産される豊富な農畜産物は、ふるさと納税でも全国有数の人気である。

またかつて廃棄物埋立処分場の残余年数逼迫という課題を、住民・企業・行政一体となって、焼却に頼らない徹底した分別による「大崎システム」と呼ばれる廃棄物処理方式を確立し克服。資源リサイクル率が80%を超え、12年連続日本一を継続中。この「大崎システム」をSDGsで再定義し、第2回ジャパンSDGsアワード副本部長賞受賞。さらに令和元年度SDGs未来都市に選定され、SDGs版総合戦略の策定など、「世界の人口一万人地域で応用可能な循環型地域経営モデル確立」を目指している。

大崎町 企画調整課 参事 中野 伸一 氏 プロフィール

1988年4月、大崎町役場入庁。税務課、耕地課を経て、鹿児島県総務部地方課へ出向。その後総務課、企画課、住民環境課等で従事し現職へ。特に2012年からJICA事業によるインドネシア共和国への環境技術指導の一員として活動。人口13000人程度の自治体の知見が国際的に必要とされていると感じている。現在は慶應義塾大学SFC研究所、鹿児島相互信用金庫との三者で締結した「大崎リサイクル未来創生会議」の町担当者としてSDGsの推進に携わっている。

「学」:鹿児島大学法文学部 法経社会学科 地域社会コース 酒井研究室

地域社会コースは、2017年の改組によって設置されたコースである。コミュニティの観点から社会学・社会教育学を中心に地域社会の現状と課題を学び、地域社会が抱えるさまざまな課題を住民参画による協働形成によって解決できる人材育成を目的としている。酒井研究室は「誰一人取り残さない」というSDGsの掲げる包摂性を踏まえつつ、毎年多くの留学生を受け入れながら、地域との協働を通じて多文化共生や地域づくりに関する実践・研究に取り組んでいる。

鹿児島大学 法文学部 法経社会学科 准教授 酒井 佑輔 氏 プロフィール

1984年生まれ。東京農工大学大学院博士課程修了(学術博士)。専門は社会教育、多文化共生、地域研究(ブラジル)。大学時代より発展途上国の開発問題に関心があり、学部時代はNGOの設立やボランティア活動に従事しブラジルに留学。2006年に大学を卒業後はメキシコの日系会社に勤務。その後大学院へと進学し、ブラジリアマゾンで森林農業を通じた地域づくりに取り組む日系移民に関する研究に従事。2012年に本学生涯学習教育研究センターに着任し、2017年に法文学部へと移動、現在に至る。

「金」:鹿児島銀行 活動概況

2018年8月、鹿児島銀行としてのSDGs視点での取り組み検討をおこなうため、経営企画部内にて「SDGs推進プロジェクト」開始。2019年2月に取り組み方針を定めた「サステナビリティ全体構想」を策定。2019年4月より「サステナビリティ推進室」を新設し、「SDGs視点の取り組み」と「ESG経営の徹底」を通じた「持続可能な地域社会の実現」を目指し、具体的施策の企画・立案を実施している。

鹿児島銀行 経営企画部 経営統合推進室長 兼 サステナビリティ推進室長 松野下 秀峰 氏 プロフィール

1997年4月、株式会社鹿児島銀行入行。支店勤務、営業支援部香港駐在員事務所、同企業取引推進グループ、日本貿易振興機構(JETRO)ニューヨーク事務所派遣等を経て、2019年4月より現職。

「金」:鹿児島相互信用金庫 活動概況

鹿児島相互信用金庫は、地域の方々が利用者・会員となって互いに地域の繁栄を図る相互扶助を目的とした協同組織の金融機関。鹿児島県一円(奄美地区除く)を営業区域とし、現在59店舗を展開。「そうしん」の名称でご愛顧いただいている。

2017年8月、信用金庫らしい、地域と一体となった地域創生の取り組みを研究・開発することを目的に「そうしん地域おこし研究所」を設立。本研究所を中心として「更なる持続可能な地域社会の実現に貢献すること」、「地域の各主体とのパートナーシップの下、SDGsの普及に努めていくこと」を目的として、2018年10月「そうしんSDGs宣言」を表明、当該宣言に基づく取り組みを実施中。

鹿児島相互信用金庫 そうしん地域おこし研究所 課長 本永 謙介 氏 プロフィール

1973年生。鹿児島県出身。1997年広島大卒。同年鹿児島相互信用金庫入庫、営業店、資金証券部、企業支援部、融資部、経営企画部を経て、2018年4月、そうしん地域おこし研究所に配属。地域の課題に対して、地域の各主体が一体となって活動するモデルづくりに取り組んでいる。現在、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程に在籍し、地域金融機関と自治体の協働をテーマに研究を行う。中小企業診断士。

「民」:一般社団法人リバーバンク 活動概況

2018年7月2日、地域課題の解決のため鹿児島県南九州市に設立。廃校「リバーバンク森の学校(旧長谷小学校・かわなべ森の学校)」の管理運営、周辺地域の空き古民家の再生、地域資源を活用したイベントの企画運営などを通じて関係人口を増やし、地域資源を活用した新しい地域のありかたを模索中。

一般社団法人リバーバンク 代表理事 坂口 修一郎 氏 プロフィール

グッドネイバーズ・ジャンポリー主催/BAGN Inc.代表/一般社団法人リバーバンク代表理事

1971年鹿児島生まれ。1993年より無国籍楽団ダブルフェイスのメンバーとして音楽活動を続ける。2010年から南九州市にて野外イベント「グッドネイバーズ・ジャンポリー」を主宰。企画/ディレクションカンパニーBAGN Inc.を設立し、東京と鹿児島の2つの拠点を中心に、日本各地でオープンスペースの空間プロデュースやイベント、フェスティバルなど、ジャンルや地域を越境しながら多くのプレイスメイキングを行っている。2018年鹿児島県南九州市川辺の地域プロジェクト「一般社団法人リバーバンク」の代表理事に就任。